

経営者のための デザイン塾

2

徳武産業株式会社様

(社)日本クラフティックデザイナー協会
香川県デザイン協会理事
猪子デザイン研究室 主宰
INOKE SUSUMU

猪子進

利用者の立場を第一に考えたカタログづくり

高齢者ケアシューズの開発で一躍全国シエアー第一位

さぬき市に本社を置く徳武産業株式会社は昭和32年綿手袋縫製工場として創業。昭和59年現社長長の十河孝男氏が代表取締役役に就任し、ルームシューズの製造販売を本格的に開始した。そして平成5年高齢者シューズの研究開発に着手し、その取り組みがNHKや各種メディアで紹介され話題となった。以降現在まで数々のルームシューズ、高齢者用ケアシューズの開発に取り組み今や業界全国第1位までに成長した。

見やすく解りやすく、しかもおしゃれなカタログづくり

徳武産業の主な製品は高齢者・障害者のケアシューズ・自立促進シューズ。販売ターゲットを高齢者・障害者に絞り込み全国のデパート、介



2005年総合カタログ

護ショップ等で販売されている。

通常の靴に比べ数多くの機能が付加されていて、履き心地の良さや歩きやすいのが特徴。さらに靴それぞれに優れた特徴があり、それらをどの様に分類し解りやすく紹介するか。デザインの重要な役割はここにある。メーカー側の都合ではなく利用者側の立場での分類・整理が何より大切。

特徴を整理し 文字数は少な目に

メーカー側は数多くの特徴を書きたいが、見る側にとってはいちいち読むことにシンドさがある。文字数は極力少なく、ズバリ特徴を伝える。コピーライターの力も重要なポイントである。

誌面のレイアウトには余白



ルームシューズでは日本初の足底板(マイカップインソール)対応カウンター付きルームシューズ。毎年5アイテム程度の新製品が開発される。

が必要、ギューギュー詰めにしないこと。ついついメーカー側の意見を取り入れてみると、てんこ盛り状態になり、誌面が見苦しくなる。読者にゆったり余裕をもって見てもらえる事を基本にしよう。

ターゲットにより デザインは変わるが・・・

ターゲットの年齢・性別・嗜好等により誌面づくりは大きく変わる。しかし担当者又は社長の好みでデザインを左右するのではない。発注者側はその点を改めて配慮を。あくまでもデザイナーは常に利用者側に立ったデザインを提示しているのだから専門家の意見を大切に。社長はあくまで骨格が間違っていないか、大きな所のチェックをお願いしたい。